

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

子どもの人権

対象学年・
取り扱った教科等

5・6年・学級活動

目標・人権教
育のねらい

互いの個性を認め合い、自尊感情を高めることで、自分はあるがままで尊い人間だと自覚する気持ちや自他の存在を尊重する人権感覚を育成する。

実施した内容

- ・ 子どもに関する身近な人権問題や世界の子どもたちの人権問題について思いをめぐらす。
- ・ 「子どもの権利条約」の、4つの原則「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」について紹介する。
- ・ どうすれば世界中の子どもたちや自分たちの人権に関する状況が改善するかを話し合う。

工夫した点

- ・ 資料を提示して、世界の様々な国や地域の、子どもの人権問題について思いをめぐらすことができるようにし、問題意識を高めた。
- ・ 調べる時間や話し合いの時間を十分にとることで、児童が問題についてじっくりと考え、自分たちの力で解決策を導き出すことができるようにした。
- ・ 学習活動の様子や使用したワークシートを掲示し、意識を継続できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 6学年社会科では人権問題に関わる歴史について学習した。

事業成果

- ・ 知的側面：世界には様々な人権問題を抱えている国があり、苦しい思いをしている子どもたちがいることに気付いた。
- ・ 価値・態度的側面：自分たちは自由に思いや考えを表明する権利があることを知り、自他の人権を大切にしたり人権問題を解決するために、自分ができることを実践しようとする気持ちを高めることができた。
- ・ 技能的側面：解決策を導き出すために、グループで積極的にコミュニケーションを図っていた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

高齢者の人権

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者に対する偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・ 高齢者の現状や課題、高齢者を支援し擁護している機関の取組について理解を深める。
- ・ 高齢者に対して自分たちができることを話し合い、合意形成をはかったり、意思決定したりする。
- ・ 高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・ 高齢者が持っている炭づくりに関する知恵や技について話を聞く。
- ・ 高齢者の話を聞いて炭にする原木を一本一本2人ペアで窯の中に運び、奥の方から立てて並べていく活動を行う。
- ・ 1か月後にできた炭を窯から一本一本運び出し、袋に詰めていく。高齢者に教えてもらったことなどを話し合い活動で振り返る。

工夫した点

- ・ 話し合いの際に、高齢者の経験に基づいた技能などのプラス面に目を向け、意見を出しやすくする。
- ・ 活動にあたり、人権教育に視点をあてた評価の基準（「体験を通し、高齢者の思いに気づいている」、「自分たちができることや取り組んで行きたいことを考え、発表しようとしている」など）を設定した上で行い、最後にお礼を伝えたり、お手紙を書いたりした。

他教科との
関連

- ・ 学級活動や社会科にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・ 知的側面：高齢者の方が、様々な知恵や技術をもっていることを児童が知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：高齢者に対する感謝や思いやりの気持ちを育むことができた。
- ・ 技能的側面：児童が高齢者の話をよく聞こうとしていた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

障害者の人権

対象学年・
取り扱った教科等

3・4年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害には多種多様な種類があることや、外見からは不自由さが分かりにくい障害もあることへの理解を深める。
- ・ 障害のある人は、その障害に対する周囲の理解と配慮、及び支援により、能力を活かした仕事に就くことも自立した生活を送ることも可能であることを理解する。
- ・ 障害の有無にかかわらず、誰もが同じように暮らせる社会を目指そうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・ アイマスク体験や車いす体験をする。
- ・ 体験を通して感じたことを話し合う。
- ・ 家や学校、身近な施設や道路などで、どのようなところに不便や危険があるのかを考える。
- ・ 障害のある人が使いやすい道具や工夫、ユニバーサルデザインなどについて調べる。
- ・ 探究活動を通して学んだことをまとめ、自分たちにできることを考える。

工夫した点

- ・ 体験活動を基に、自分たちの身近な生活へと広げながら話し合いを進めた。
- ・ 探究活動で調べた結果を報告する発表会を行い、学びを共有できるようにした。
- ・ 活動にあたり、人権教育に視点をあてた評価の基準（「体験を通し、人々の思いに気付いている」「自分たちにできることや取り組んでいきたいことを考え、発表しようとしている」など）を設定した上で行った。

他教科との
関連

- ・ 学級活動にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：障害のある人たちの不自由さを体験を通して知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：障害の有無にかかわらず、誰もが同じように暮らせる社会を目指そうとする気持ちが高まった。
- ・ 技能的側面：自分たちの身の回りについて課題を見つけ、解決策を考えるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年・社会科

目標・人権教育のねらい

身分制と人々の暮らしについて調べ、武士を中心とした身分制度について理解することができるようにする。

実施した内容

- ・ 幕府による民衆に対する取組を調べる。
- ① 江戸時代の身分制度について調べる。
- ② 幕府による百姓支配について調べる。
- ③ 支配のしくみと差別されてきた人々の生き方について調べ、話し合う。

工夫した点

- ・ 人々が身分に応じて様々な生活を営んでいたことに気付かせた。
- ・ 住む場所や仕事、税の負担等が身分によって制限されていたことを押さえ、身分制度が当時の人にとって大きな影響を与えていたことを捉えさせた。
- ・ 身分制により重い税負担を人々に負わせ、それが親から子へと引き継がれることによって、武士を中心とする身分制度が定着した様子を捉えさせた。

他教科との
関連

- ・ 学級活動にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：身分制度のもとで差別されていた人々の実態や思いを知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：自分なりに学習計画を立てて、幕府による支配のしくみを意欲的に調べようとしていた。
- ・ 技能的側面：差別されてきた人々の生き方について自分の考えを積極的に表現しようとしていた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

外国人の人権

対象学年・
取り扱った教科等

3・4学年・外国語活動

目標・人権教育のねらい

- ・ A L Tとのやり取りや交流活動を通して、外国の言語や文化への理解を体験的に深める。
- ・ 相手の思いを汲み取ったり、相手に配慮しながら関わったりする活動を通して、互いの思いやよさを認め合って、より深く関わろうとする意欲や態度を養う。
- ・ 相手に伝わるよう工夫しながら話したり、反応しながら聞いたりして、相手に配慮したコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ・ 互いの文化を認め合い、人権を尊重し合おうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ A L Tの自己紹介を聞いて、好きな食べ物を知る。
- ・ A L Tの好みに合わせて、紙ピザを作る。
- ・ 紹介の仕方やより伝わるための工夫について、考えたり話し合ったりする。
- ・ 自分が作った紙ピザを紹介し、渡す。
- ・ A L Tと一緒にレクリエーションをして交流する。

工夫した点

- ・ A L Tが喜んでくれるようなピザを作るという明確な相手意識と目的意識をもたせ、児童の意欲や関心を引き出した。
- ・ A L TとH R Tによるバッドモデルとグッドモデルのやり取りを見せることで、児童がよりよいコミュニケーションの方法に気付くことが出来るようにした。
- ・ 最後にA L Tから感想をもらうことで、言葉は相手のことを知り、人と人が仲良くなるためにあるということを実感できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 道徳で、国際理解について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：外国の言語や文化、日本との違いについて知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：相手の文化を認め、人権を尊重し合おうとする態度が見られるようになった。
- ・ 技能的側面：身振り手振りをういて相手とコミュニケーションを図ろうとしていた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

ハンセン病患者・元患者等と人権

対象学年・
取り扱った教科等

5・6年, 体育(保健)

目標・人権教育のねらい

- ・ ハンセン病について正しく理解することができるようにする。
- ・ ハンセン病に対する偏見や思い込みを取り除き、ハンセン病患者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。

実施した内容

- ・ 病原体に感染して起こる病気について確認する。
- ・ 動画「ハンセン病問題を知る」を視聴する。
- ・ ハンセン病について分かったことを話し合う。

工夫した点

- ・ 感染症は、病原体に感染して起こる病気であることやたくさんの種類があることを強調した。
- ・ ハンセン病に関する理解を深めるために、動画視聴を通して分かったことをグループで話し合わせた。
- ・ ハンセン病は、「らい菌」の感染によって起こり、感染力は弱く、感染しても発病することはほとんどないことを強調した。
- ・ 偏見や差別をなくすために、相手の人権を尊重することの大切さについて考えさせた。

他教科との
関連

- ・ 体育(保健)科「病気の予防」の発展的学習として行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：児童は、感染症としてのハンセン病の詳細や偏見について詳しく知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：正しいことを勇気を出して言おうとする気持ちを高めることができた。
- ・ 技能的側面：苦しい思いをしている人たちを共感的に受け止めようとする発言が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・ 一人ひとりがマナーを守り正しく利用することで、便利で安全なネット社会を築くことができる意識を育てる。
- ・ インターネットの現状や課題、トラブルに遭遇した時の対処法について理解を深める。
- ・ インターネットのトラブルに対して自分たちができることを話し合い、合意形成をはかったり、意思決定したりする。
- ・ 自分の命、他者の命も大切にするインターネットの使い方をしていこうとする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・ インターネットの人権に関するDVDを視聴する。
- ・ オンラインゲームやインターネットの書き込みなどの問題点をどのようすれば防ぐことができるのかなど自分たちができる解決策を話し合う。
- ・ 話し合い活動を通して学んだことをまとめ、交流する。自分たちにできることを考える。

工夫した点

- ・ 話し合いの際に、インターネットを利用して怖い経験をしたことはないか、また、その時、どんな対応をしていたか自分の生活に視点を当てさせる。
- ・ 活動にあたり、人権教育に視点をあてた評価の基準（「インターネットの現状や課題、トラブルに遭遇した時の対応の仕方について理解している」「自分たちにできることを考え、発表しようとしている」など）を設定した上で行った。
- ・ 講師の先生に最後にお礼を伝えたり、お手紙を書いたりした。

他教科との
関連

- ・ 学級活動で、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：児童がインターネットに関する諸トラブルの実態や対処法を知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：自分や他者の命を大切にするという気持ちをもってインターネットを使おうとする心構えを育むことができた。
- ・ 技能的側面：自分たちにできることを考えようとする言動がみられた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鹿児島県

学校名

出水市立大川内小学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

1・2年・学級活動

目標・人権教育のねらい

「遊び」や「服装」などを性別と関連づけてしまう意識に気付き、一人一人異なる思いがあることを受け入れ、認め合おうとする態度を育てる。

実施した内容

- ① 「女の子らしい」「男の子らしい」という言葉からイメージすることを発表する。
- ② 「これって、女の子？男の子？」について考える。
- ③ カードに書かれた「遊び」や「洋服」などを「女の子」「男の子」に分けることができるか考え、どんな分け方をしたか、自分の考えを話し合う。
- ④ 悩んだり困ったりしたものについて話し合う。

工夫した点

- ・ 事前にアンケートを取り、児童の実態を把握した。
- ・ 黒板にカードを貼って意識を高め、一人一人にカードを配って男女に分ける活動を行った。
- ・ 分けた後は、その理由についても相手を意識して話し合いを行った。
- ・ タブレットを使って、バグパイプ奏者や男性のスカート画像を見せて男女で分けることができないことを捉えさせた。
- ・ 絵本の読み聞かせを行い、一人一人に余韻をもたせて学習を終えた。

他教科との
関連

- ・ 生活科にて、女性の人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「男だから」「女だから」と決めつけるのではなく、自分らしく行動することが大切だということに気付いた。
- ・ 価値・態度的側面：一人一人異なる思いがあることを理解し、それを認めようとする気持ちを高めることができた。
- ・ 技能的側面：友だちの意見に耳を傾け、大切にしようとする言動がみられるようになった。